



ともそだち通信 No.37 おひさまにっこり3月号 平成25年度

発行：日立市教育委員会生涯学習課 家庭教育サポーター
問い合わせ先：0294-23-9157

ともそだち…

親と子が共に育ちましょう
親と親も共に育ちましょう
サポーターも共に歩みます

今できることを全力で

先日サポーター4人で、市民会館に「ひたち童謡のつどい」を見に行きました。
市内幼稚園のお友だちの歌声を聴き、胸が熱くなりました。

ただ一所懸命に歌う、大きな口、大きな目、踏ん張る脚。

きっと数年後には、もっと上手にもっと心を入れて歌うこともできるでしょう。

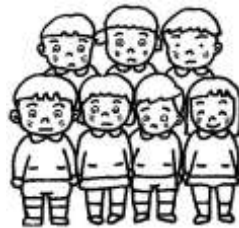
でも、元気いっぱい園児たちの歌声は、今だけもの。

だからこそ、大人は感動するのだと思いました。

子どもは、今できることを力いっぱいします。

はいはいも、初めの一步も全力です。

サポーターも見習って、新年度は全力を出し切ります。



新しい暮らしの始まり

3月、4月は、お仕事の異動など転居も多いことでしょう。初めての子育てを日立市でスタートし、やっと慣れたのにといい声も聞きます。サポーターも顔を覚えてもらい、仲良くなれたみなさんとお別れは淋しいです。

新しい土地で、どんな子育て支援があるのか、どんな遊びの場があるのか、心配でしょうが、日立市がそうであるように、どこの地域にも子育てのサポートはあります。ぜひ、市のホームページなどを利用して探してみてください。そして、みなさんが、日立市で知らないママにも声を掛けたように、きっと新しい場所でも、声を掛けてくれる人がいます。

サポーターの講座に初めて申し込んだときも、子どもと一緒に心強かったはず。どうぞ新しい暮らしを親子で楽しみに。そして日立市とサポーターのことも、ときどき思い出してください。



「肩の力を抜いて子育て」

—子どもは自ら育つ力を持っています—

ともそだち講演会（2月22日開催）での、講演の一部をご紹介します。
講師は、柴田愛子先生（横浜市のりんごの木代表）でした。



泣いている子どもに、大人の90%は「どうしたの？」と声を掛けます。大人は理由を知りたいがるものです。でも、どうしたのか言える子は泣いていません。感情が先にあるのです。整理してことばにはできないのです。

赤ちゃんのお母さんは、お話しのできない赤ちゃんに、ああかしら、こうかしらと思いをめぐら

します。やがて子どもが話せるようになると、ことばに頼って親の勤がにぶってしまうようです。でも子どもは、まだことばでは表現できないことが多いのです。表情の方が確かなのです。大人でも、ことばではごまかせても、表情に出ることはよくありますね。心の内面をことばで表現できるようになるのは4歳以降と言われています。

子どもが泣いていたならその心に寄り添ってください。子どもが感じていることを口に出してみてください。「悲しかったね」「怒っているんだね」「くやしかったね」と。子どもは、わかってくれると、「あのね、こうだったんだよ」と話し始めます。

なお、講演の全文は、近日中に市のホームページに掲載されます。
日立市 → 子育て → ともそだち講演会 でご覧ください。